

# 令和4年度学校運営評価まとめ

## 1 目的

教育目標の達成状況、教育水準の維持・向上にむけた教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善・発展を図る。

## 2 実施日

令和4年12月1日（木）～12月27日（金）

## 3 方法

(1) 対象者：職員21名（学院長を除く）

(2) 実施方法

学校運営評価表を用いて無記名自記式により実施した。評価表は、【I 教育理念・教育目的】、【II 教育目標】、【III 教育課程経営】、【IV 教授・学習・評価過程】、【V 経営・管理過程】、【VI 入学】、【VII 卒業・就業・進学】、【VIII 地域社会／国際交流】及び【IX 研究】の9つのカテゴリで、38の下位項目、117の評価内容で構成されている。評価尺度は、「Aよく当てはまる」、「B当てはまる」、「Cあまり当てはまらない」、「D当てはまらない」の4段階とした。また、「C」「D」を回答した場合は、改善方法への意見を自由記述とした。

評価表の配布及び回収方法は、学院の共有フォルダ内の指定した場所にある評価表に各自が入力し、保存したことによって回収とした。

(3) 集計及び分析方法

① 各評価内容について、評価尺度の回答数及び割合の単純集計を行った。

② 評価尺度は点数化し、「Aよく当てはまる」を4点、「B当てはまる」を3点、「Cあまり当てはまらない」を2点、「D当てはまらない」を1点の4段階とし、4点満点で評価内容及び下位項目、カテゴリの平均点を算出した。平均点3.0以上が肯定的評価、3.0未満が否定的評価と分析した。

## 4 結果

学校運営評価表の配布数は21名、回収数21名（回収率100%）で、有効回答数は21名（有効回答率100%）であった。

1) 全体的評価『図1、図2』 ※（ ）内は昨年の値である。

カテゴリ別平均点は2.65～3.60（2.63～3.45）であり、9つのカテゴリのうち、昨年度と同様に8つのカテゴリが3.0以上と肯定的評価であった。最も平均点が高かったのは、【I 教育理念・教育目的】3.60（3.45）、次いで【II 教育目標】の3.56（3.45）、【VI 入学】の3.52（3.40）であり、順位は昨年度と同様であった。最も低かったのは、【IX 研究】2.65（2.63）、次いで【VIII 地域社会/国際交流】が3.22（3.07）で昨年度と同様であった。

昨年度と比較するとすべてのカテゴリが上昇している。

図1 令和4年度カテゴリー別評価

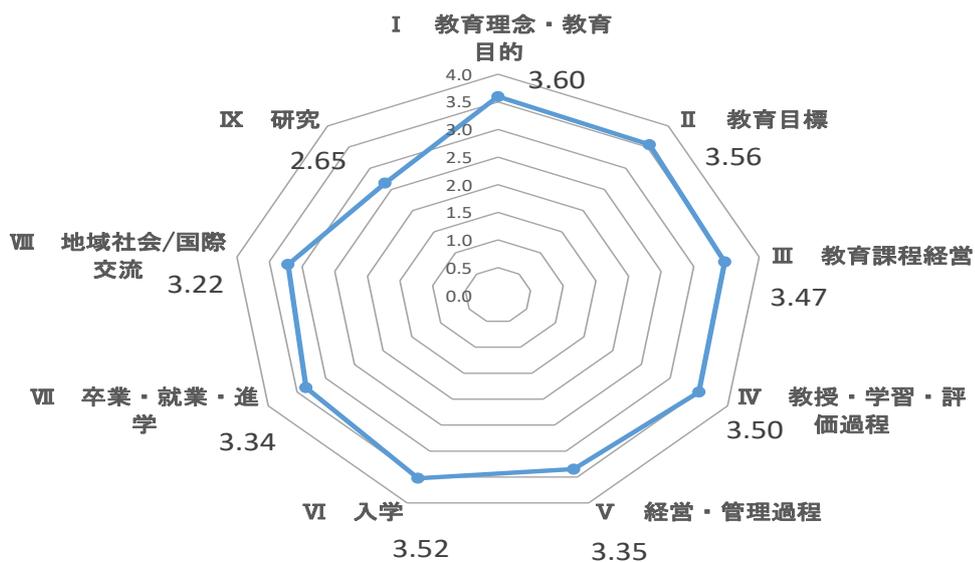
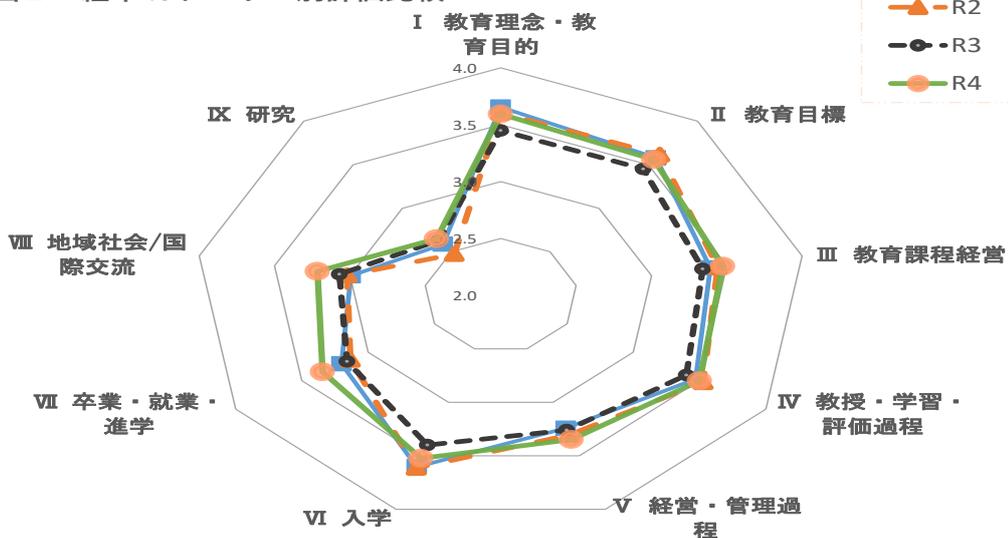


表1 カテゴリー別評価の推移

カテゴリー	令和2年度 平均点	令和3年度 平均点	令和4年度 平均点
I 教育理念・教育目的	3.61	3.45	3.60
II 教育目標	3.62	3.45	3.56
III 教育課程経営	3.44	3.34	3.47
IV 教授・学習・評価過程	3.53	3.40	3.50
V 経営・管理過程	3.31	3.26	3.35
VI 入学	3.61	3.40	3.52
VII 卒業・就業・進学	3.13	3.16	3.34
VIII 地域社会/国際交流	3.02	3.07	3.22
IX 研究	2.47	2.63	2.65

図2 経年 カテゴリー別評価比較



カテゴリー別評価尺度割合「図3・図4」をみると、「Cあまり当てはまらない」・「D当てはまらない」と回答した人が最も多かったカテゴリーは、【IX 研究】で27.0%（36.7%）であり、「Aよく当てはまる」は1.6%しかいなかった。次いで多かったのは、【VIII 地域社会/国際交流】が15.0%（19.7%）、【VII 卒業・就業・進学】が13.2%（11.2%）で昨年と同じ傾向だった。「Cあまり当てはまらない」・「D当てはまらない」と回答した人は年々減少傾向となっている。

図3 令和4年度学校運営評価 評価尺度割合

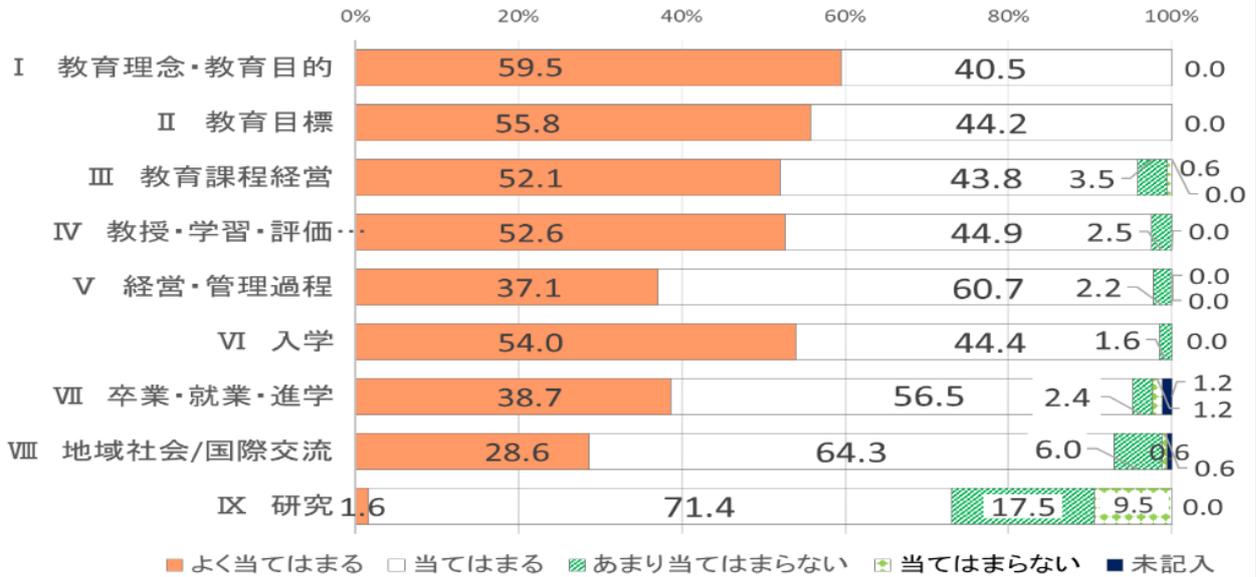
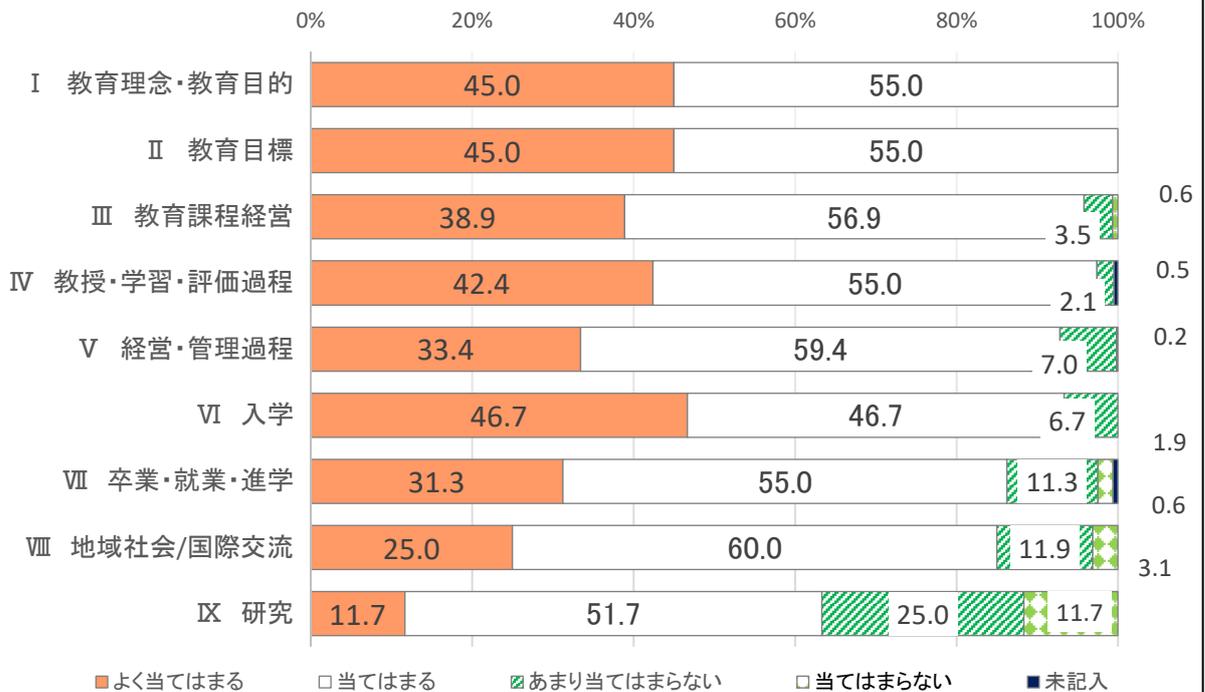


図4 令和3年度学校運営評価 評価尺度割合



## 5 まとめ

新カリキュラムが決定し、教員が共通理解し教育活動を実施できていると考える。また、3年間に渡った新型コロナウイルス感染症の危機に対し、人員不足の中、学生が学習を継続できるように体制を整え、ハラスメント防止に係る規定の策定や相談窓口等の体制を整備してきた。今後に向けて、ICT活用による学生の学習環境の整備や、教員の自己研鑽を重ね、学生にとってより効果的な教育方法について、今後も検討していく必要がある。